

女性巨大尿道結石の1例

え はら しょう じ
江 原 省 治

キーワード：女性，巨大，尿道，結石

要 旨

症例は90歳，女性で排尿時痛，外尿道口部の硬い腫瘤を主訴として特別養護老人ホームより来院，骨盤単純XP，骨盤単純CTで56×33×28 mm大の巨大尿道結石と診断した。既往歴に脳出血があり，寝たきり状態で要介護度は5，中等度の認知症を認め，排尿はオムツで管理されていた。治療は外尿道口の切開，リソクラストによる経尿道的碎石術を行った。結石成分はリン酸マグネシウム・アンモニウム，炭酸カルシウム，酸性尿酸アンモニウムであった。オムツで排尿管理された認知症を伴う長期臥床患者の尿路感染症や血尿を診る際には本症の可能性も念頭に置く必要があると考えられた。

はじめに

女性は尿道の解剖学的特徴より結石が嵌頓し尿道結石となることはまれである。今回，脳血管障害後の寝たきり状態の女性に発症した巨大尿道結石の1症例を経験したので若干の文献的検討を加え報告する。

症 例

患者：90歳，女性

主訴：排尿時痛，外尿道口部腫瘤

家族歴：特記すべきことなし

既往歴：1997年10月に脳出血を発症した

現病歴：1999年10月より特別養護老人ホームへ入所，入所時より寝たきり状態で要介護度は5。排尿は尿失禁状態でオムツにて管理されていた。2002年2月，9月，10月には尿路感染症による発熱を認め，抗菌剤で治療された。今回，同年12月末より排尿時痛，血膿尿が出現，外尿道口部付近に硬い腫瘤を触れるため2003年1月8日当科へ紹介された。

現症：体温37.4度と発熱があり，両側CVAに軽度の叩打痛を認めた。体格栄養不良で右片麻痺があり，右上下肢に拘縮が認められた。意思の疎通性は不良で，中等度の認知症を伴っていた。外陰部皮膚はオムツ皮膚炎による慢性炎症所見を認め，外尿道口には黄白色の硬い腫瘤が観察された(図1)。内診所見は膣前壁に鶏卵大の硬い腫瘤を触知し，圧痛が強く，外尿道口より約1 cmの部分

Shoji EHARA

出雲市立総合医療センター

連絡先：〒691-0003 出雲市灘分町613番地